

陳情第 77 号 共謀罪に関する議論を深めることを求める陳情

3月議会で、調布市議会としては、「共謀罪」の制定に反対する意見書が賛成少数で国へ提出できなかったことを踏まえ、法案成立も時間の問題と考え、法案についての結論はどちらでも良いと言いつつも、調布議会が法案成立後、この法が、住民の自由がどのように制約、規制され警察が住民をどのように監視するか、など市民への影響を事前に想定し、テロの予防と言われながらそれを口実に市民の自由が不当に制約されないように議論しておくべきと主張しています。またテロ行為のみに注目するのではなく、中東の歴史を知り、そこに暮らす人々にも思いを寄せて、テロをなくす道筋を探していけば、日本の法律の中でテロ対策のために共謀罪が果たして必要か否か見えてくるのではないかと、いま一度立ちどまって調布市議会で「共謀罪」に関する議論を深めれば、ということをお求めしていますが、調布市議会として、そもそもそうしていけば、共謀罪は必要ないという結論を得るのではないかとの思いもあって、調布市議会として議論を深めるよう求めた陳情を提出されたとも受け止めますので、その陳情の趣旨は理解できるものですので、今陳情については趣旨採択を求めます。